

ねじりはちまき

暑中お見舞い申し上げます

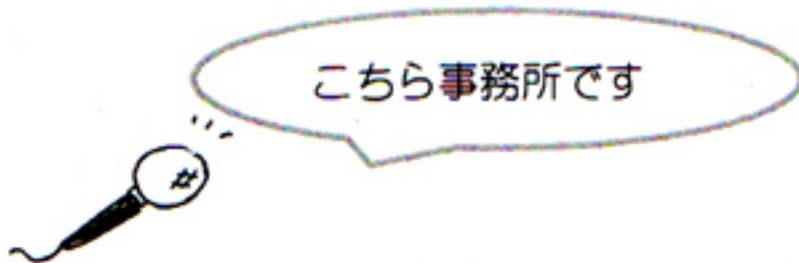
皆様にはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。
また、日頃格別のお引立てを頂き、誠に有難く厚く御礼を申し上げます。
今後ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

いよいよ、平成が終わって令和という時代になりました。
おめでとうございます。令和天皇陛下のご挨拶は、「皆さんの健康と幸を祈るとともに、我が国が諸外国と手を携えて世界の平和を求めつつ、一層の発展を遂げることを心から願っております。」
と、いられています。

戦争のない平和な時代が来る、と思います。有難いことでもありますね。

今年の夏は特に暑いようです。どうぞ、お元気で素晴らしい日々を過ごされますことをお祈りいたします。

幸田 常一



郡山市の現場と、二本松市の現場、本宮市の現場で引き続き
住宅新築工事をお世話になっております。
よろしくお祈りいたします。

再び水のことについて

かつて「水」をテーマに書いたことがあるが、今回は視点を変えて取り上げてみたい。とにかく我が国は、水に恵まれていると思うが、いざその恵まれ方を計数的に表現できるかといふとなかなか難しい。確かに難しいが、その恵まれ方を表わす方法として、人ひとり当たりの一日の水使用量で表すことができれば、一つの参考になるといえる。その数字を借りれば、世界全体の平均は80リットル（アフリカや中東地域は5リットル）だが、これに対して日本人の使用量は320リットルだという。日本は世界平均の4倍である。このことから、我が国は水に恵まれていると言っていいだろう。それは降雨量も多く、森林も豊かであるからだともいえる。そこで今回は、水に関連する「漢字」や「用語」・「ことわざ」を辿っていきたい。意外と面白い発見があるかも知れない。

先ず「水」に関する漢字（さんずい篇）を見てみよう。「雨」が降り、「溪流（沢・滝）」や「伏流水（地下水）」となり、「川（灘・早瀬・大河）」や「湧水」となり、或は「湖」や「池（沼）」・「湿原」を形成し、やがて水は「流れ」て「海」に注ぐ。「沿岸」では「浜・渚」そして「湾」や「入り江（浦）」が見られる。「港」には船が「停泊」し、海には「満ち潮・引き潮」があり、「波浪」や「渦巻」もある。海魚が「泳ぎ」、「漁業」が営まれる。また、「沖」に行けば「太平洋」として広がる。どこか水上ではボートを「漕ぐ」姿が見られたり、魚採りで水に「潜る」人がいるかも知れない。

さらに、河川が豪雨で「洪水」となって堤防が「決壊」し、家屋に「浸水」して「泥々」になる。「治水」は大事だ。川は底が「浅い（浅瀬）」か「深い」か、水質が「清浄（澄む）」か「汚染」されているかも知れない。また、水に「浮く」ものもあり、「沈む（水没）」するものもある。水は「液体」である。「泡」や「水滴」となることもある。水を「温め」れば「湯気」を立て、「沸騰」し、蒸発する。染料を水で「溶か」して「染め」れば、「濃い」「薄い」「淡い」もある。体について言えば「排泄」、そして「汗」や「分泌」があり、喉が「渴く」。感情に関しては「涙」があり、「泣く」がある。一方、田に水をひくのに「溝」を掘り、水場は「滑り」やすいから「注意」しないとイケない。生活の場面では、日々「洗濯」を行い、食べ物には「漬物」があつたり、「汁もの」がある。「添え物」もあればいい。飲み物には「酒」があり、それを「漆塗り」の器で飲むのもいい。「注ぐ」とき器から「漏れ」ないようにしないとイケない。美味しいものをいただければ「満ち」足りる。夕食を「済ませ」れば、やがて明かりを「消して」寝る。

「津」はふなつきで、津、大津、会津等があり、川や湖、海の水運の要所であつた。「潟」は潮がさせば隠れ、ひけば現れる所で「新潟」や「八郎潟」がある。

それにしても、水にまじらない可燃性の液体である「油」がなぜ「さんずい篇」なのか分からない。分からないと言え、さんずい篇の漢字には、普段使うものとして、滅・法・活・派・況・漢などがある。水とどんな関係があるのだろうか。起源を辿れば分かるかも知れないが、ここでは残念ながらそこまで辿り着けない。ご容赦願いたい。

次に「水」にまつわる「用語」について取り上げたい。皆さんはどんな用語を思い浮かべるだろうか。先ずは「水臭い」や「水に流す」ということか。「水臭い」は、よそよそしい、他人行儀だという意味で、“親しい間柄なのになぜそうなの？”という時に使う言葉である。「水に流す」は、過去のことをとやかく言わず、すべてなかったことにするという意味だ。相手のことを許す意味も含まれていて、なかなか言えない言葉だと思う。過去にとらわれず、共に未来志向で行こうという建設的な意味合いが込められているといえる。

「水入らず」もあれば「水入り」もある。「水入らず」は、内輪の親しい者ばかりで、中に他人を交えないことで、リラックスできてこういうひと時もいいものだ。「水入り」は相撲で使われる用語で、勝負が決せず双方が取り疲れた時、しばらく引き離して休ませ、力水を付けさせることをいう。「入る」と「入らず」でこうも意味がちがってくるのだ。

水のつく用語に物事を否定的に捉える使い方がある。例えば、「水の泡」は、努力などが無駄になることを意味する。「水になる」や「水にする」も同様な意味合いである。「水をさす」は、うまくいっているのに邪魔をして不調にする意味であり、「水を掛ける」も、盛んな勢いをそぐよう邪魔をするということで、双方とも邪魔をしてしまう意味合いである。もう一つ「水が合わない」は、その土地の風土・気風が自分に合わない時に使い、合わないことを水に代表させてこういう言い方になっているのだろう。一方「水に慣れる」という言い方もある。新しい土地や環境に慣れるという意味だ。これも水を代表させている。体のことで、「水ぶくれ」や「水太り」と言われるといい気がしないが、「水増し」となるとこれは批判されてしまう。「水増し」は、実質や規程の数量以上に見せかけだけ増やすことである。やってはいけないことについて「水」が使われている例である。また、「水掛け論」という言い方もある。「水掛け論」とは、日照りの時百姓が自分の田へ水を引き込もうとして争うことから、双方が互いに理屈を言い張って果てしなく争うことを意味する。生産的でないことをさす使い方である。譲り合いも大切なことだ。

さらにどんな用語があるか。「水を向ける」「水をあける」や「水をうったよう」がある。「水を向ける」は、相手の関心のある方向へ向けるように誘いかけることで、「水をあける」は、競っている両者にかなり差をつけること、「水をうったよう」は、話し声も聞こえず静まり返っているさまを指している。これらは案外使われることが多い方かもしれない。

「水も漏らさず」は、少しの間隙もなく敵を囲むさまで、防御または警戒が厳重なさまを指す。「水際立つ」は、ひととき目立つこと、「水の出端」は、最初は勢いがよいが次第に衰える物事の喩えに使われる。それと季節感を表わすものとして「水温む」や「水澄む」がある。「水温む」は、春になって水に温かさが感じられること、「水澄む」は、秋が深まり、大気ばかりでなく、水も清らかに透き通ってきたという感じを表わしている。

また「水を得た魚のよう」がある。これは、自由に活動できる場を得て生き生きとしているさまをいう。「水も滴（したた）るような」は、つやつやとして色気のあるさまをいう。その外ご存知の通り、「水先案内人」「水商売」「水仕事」「水飲み百姓」という言葉もある。

では最後に、ことわざとしてはどういう使われ方をしているかを見てみたい。

「水は方円の器に随う」：水が容器によってどんな形にもなることから、人も交友・環境によって善悪いずれにも感化されるということ

「水清ければ魚棲まず」：あまり清廉すぎると、かえって人に親しまれないということ

「水清ければ月宿る」：心が清らかであれば、神仏の加護があるということ

「水心あれば魚心」「魚心あれば水心」：相手が好意を持てば、こちらにもそれに応ずる用意があるということ（魚に心あれば、水にもそれに応ずる心があるということ）

「水は逆さまに流れず」「水の低きに就くが如し」：何事にも自然の流れや順序があるということ。物事のなりゆきを止めにくいことをいう。

「水の流れと人のゆくえ」：前途の知れにくいことのたとえとして使われる

以上、水に関わるコトバについて見てきたが、水は最も身近にあり、生きるうえで不可欠な存在であるがゆえに多く用いられてきたのだという思いを深くする。いかがでしたか。

サユリ姫に会いに、浅草岳+守門岳

【今回登った山の概要】(◎は日本二百名山、○は日本三百名山)

- ・浅草岳 (○あさくさだけ 1585.5m)
- ・会津と越後の国境、福島県只見町と新潟県魚沼市(旧入広瀬村)にまたがる。
- ・越後三山只見国定公園内会津最奥の山
- ・新花の百名山、一等三角点百名山、東北百名山、新潟百名山、うつくしま百名山、会津百名山、甲信越百名山
- ・守門岳 (◎すもんだけ、袴岳 はかまだけ 1537m)
- ・越後平野から見た西から、大岳(おおだけ 1432.4m)、青雲岳(あおぐもだけ 1487m)、袴岳の主稜線を総称して守門岳と呼ばれている。
- ・新花の百名山、新潟百名山、甲信越百名山

7月4日(木)夜、次はどここの山に登ろうかなと考えていた。天気予報では日本海側の方が天気は良いらしい。アルコールが入ると考えは一挙に飛躍する。“そーだ！ヒメサユリに会いたい！”と思った。

浅草岳にはこれまでに2度登っている。最初は20年ほど前に福島県側只見町の入叶津(いりかのつ)から、前回は2009年8月に田子倉から。

今回は新潟県側から、コース的には最も長く一番花が多い「六十里越」(*)から登りたいと思った。

(*)「六十里越」:新潟県魚沼市入広瀬地区(旧北魚沼郡入広瀬村)東部の大白川と、福島県只見町大字田子倉の間に所在する峠で、最高点の標高は863mに達する。六十里越の名の由来は、実際の距離は六里(約24km)でありながら、険しさゆえに一里が十里にも感じられるほど余りに急峻かつ長大な山道であること、あるいは中世まで東日本においては一里は500mであったことなど、諸説ある。(ウイキペディア)

5日(金)、12:40出発、本宮IC~会津坂下IC・国道252号線経由只見町15:30時着。坂下ICのコンビニを過ぎしてしまい、約60kmの間道の駅はあったがコンビニがなく、少々焦った。

只見駅近くの商店で食料を調達し田子倉ダム堰堤の脇から県境を目指す。急坂・急カーブ、スノーシェッドあり、トンネルは狭い。

県境の六十里越隧道を出たところに登山口があり、16:10着、30台くらいおける広さの駐車場に車はない。日暮れまでは時間があり、こんなに余裕を持って登山口に到着するのは希なことだ。ポストに登山届けを出し、助手席のベッドメイキングをする。標高750mのためか虫が少ないが蚊取り線香を焚く。

新潟側の山あいがいよいよ青空になり、ごくゆっくりと動く白い雲に映える薄いオレンジ色の夕焼け、暮れてしまう前の小鳥のさえずり、弱い風が木々の葉を

揺らし、背後に沢の音。自然との一体感を時折通る車が邪魔をする。本当に来て良かったと思う。送り出してくれる妻のおかげだ。杯が進む。

20時、薄い三日月が出ていた。就寝。夜中目が覚めたら車が5、6台駐まっています、見上げると星が輝いていた。

6日(土)、4:30起床。曇り、風弱く青空も見えている。多くの車が駐まっています登山者が早々に出発していく。自分はマイペース。新潟産コシヒカリのサトーのごはんとジャワカレーでしっかりと朝食を摂り、5:30出発。車は数えてみたら19台あった。

樹林の中の結構な急坂を、上り下りをくり返しながら登って行く。小さな徒渉がいくつかあったが水量は少なかった。送電鉄塔やマイクロ中継局を經由し、両側は低木に遮られて見通しはきかないが空が見えている尾根筋を登って行く。

樹林を抜け南岳(1409m)、7:30着。雲はあるが見通しがきき、右手正面に上部が雲に覆われた、雪溪の残る浅草岳本峰がどっしりとしている。左手北西側に3年半前に登った守門岳がすぐに分かった。その奥左手に雪溪が残る越後三山(八海山・中岳・越後駒ヶ岳)。ずっと左手に燧ヶ岳の双耳峰がスクッとカッコ良い。その左手になだらかに会津駒ヶ岳が横たわっている。

妙高も見えろと言ってくれた人がいた。確かに右手奥にうっすらと火打山や妙高山の連山が見えた。眼下の田子倉湖は4枚羽根が回っている矢車のような。

この後さらに良い景観が展望できると期待したが、結果としてはこれ以降はガス(霧、雲)のため遠くの眺望は得られなかった。

一端下って鬼ヶ面山(おにがつらやま)に至る途中でヒメサユリに出会う。風に揺れる淡いピンクの花、優しい気持ちになる。山行目的の一つが実現した。

ピンク色の濃い花やつぼみのも沢山あった。数は少ないが黄色のニッコウキスゲも咲いていた。

切れ落ちた崖の部分を通過するときは少し緊張した。8:40鬼ヶ面山頂(1465m)着。浅草岳山頂は雲の中。

9:15猪(むじな)沢カッチで休憩。10:05、前岳の麓、ガスの中、新潟県側の他の二つの登山道の合流点には多くの人が休んでいた。

踏み跡に泥がついている幅40m長さ30m位の雪溪を慎重に登り、整備された緩やかな木道を通り登って行くと、10:25浅草岳山頂着。

ガスで周囲の眺望はない。そんなに広くない山頂には30人ぐらいの人たちがいて、ラーメンを作ったり、おにぎりやパンを食べている。真ん中には岩の重なりの上に石造の小さなお宮があった。

お宮の下で話し込んで入る人達がいると、女性が手の平に小動物を乗せていた。聞くと「ヤマネ」という国の天然記念物の動物で、見たところ体

調は5cm程、尾は3cm位で丸まって手のひらに収まっている。体毛は暗褐色で姿はリスとネズミとモグラの中間みたい、背中に一本黒い筋があり、触られたりしていても逃げない。写真に撮った。後で調べてみたら、準絶滅危惧種で滅多に出会うことのできない動物だった。

10年前の8月に登った時には、三角点標柱の土台のコンクリートの隙間から2匹のヤマカガシ(毒蛇)が顔を出して涼をとっていたのを覚えていたので、自分はヤマネを見るとき以外は三角点とお宮には近づかなかった。そこに腰掛けて食事している人もいた。

11時下山開始、11:50 猪沢カッチ、12:50 鬼ヶ面山、13:25 南山。さらに下り樹林の中に入ると風もなく暖かくなり蝉の鳴き声が大きくなってきた。14:10 マイクロ中継局、トンボがたくさん飛んでいる。新潟側は霞み雲で青空が多い。福島側は黒い雲が厚い。

最後の急坂を下り15時登山口着。所要9時間30分、カッパを着ることもなく、無事終わる。アップダウンの多い累積標高差の大きい山行だった。

花はヒメサユリとニッコウキスゲの他に、アザミ、タニウツギ、ウラジオヨウラク、ゴゼンタチバナ、ウスユキソウ、アカモノ、イワイチョウ、イワカガミ、ツマトリソウ、エゾアジサイ、などたくさん見ることができた。山ツツジも少し残っていた。

駐車場の車は半分くらいになっていたが、路上駐車している車があった。ナンバーを見たら、計20台くらいのうち地元新潟や長岡の他に、群馬、山形、練馬、水戸、飛騨、湘南があった。福島は1台しかなかった。

下山途中から、天気が良い方に向っているのに、浅草岳のみで帰るのはもったいないと思い始めた。7日には予定が入っていたが、妻とも話して調整することにした。隣の守門岳に登りたい。

まずは、電波環境の良いところに移動することが先決だ。252号線を新潟側に下り集落のある旧入広瀬村の道の駅に着き、妻と話した。

次は食料の調達だ。道の駅の売店のお姉さんがとても親切で、ペットボトル6~7本に水をもらい、握ったばかりという魚沼産コシヒカリのおにぎりを買う。コンビニまでは遠いとのことで農協が経営する店を教えて貰い、板氷、缶詰やパン、バナナ、牛乳、ビールなどを買う。

準備万端、登山口を目指す。3年半前のことを段々思い出してきた。旧守門村(現、魚沼市)二口(ふたくち)登山口に17時前に着く。

マイクロバスが1台駐まっいて、登山客12~3人が賑やかに山談義をしていた。守門岳を下りてきたところで、遅れている二人を待っているとのこと、翌日は浅草岳に登るとのことなのでガイドさんと情報交換した。バスが去ってか

らは静かになり夕食を摂る。

山の間から見える空は青空の部分が多くなっているが風が強くなってきているのが気がかりだ。20時頃就寝。

7日(日)、4:30起床、風が強い。猿倉橋を渡り二口登山口を5:30出発。しばらく行くと「熊に挨拶」の赤いつり鐘があり、鐘をつく。護人清水は通過。樹林の中でも結構風があり、汗ばんできた体には乾いた風が心地よい。ナラやブナの原生林は包み込まれるようでホットする。

尾根筋に出て周囲が刈り払われた「基本測量点」の石柱のあるピーク6:36着。見晴らし良いが風が強く雲が厚くなってきた。アップダウンを繰り返して7:07「中間点 標高1000m」「滝見台 オカバミ滝」の標柱着。風強く吹き飛ばされそうになる。7:15再びブナの樹林帯に入り休憩。「大岳分岐0.5km 袴岳1.3km」の標識がある。雨が飛んできたのでカッパの上着を着ける。

登山口から3時間かかり、「←守門岳 二口→」「10分の8」、と表示された守門岳と大岳の分岐に着く。少し休み山頂(袴岳)を目指す。ところどころ木道が整備され、ヒメサユリやニッコウキスゲも咲いていた。高原状の青雲岳を経て山頂に9:10着。

風が強くガスで南東側、すぐ近くの浅草岳上部は見えずその右奥の越後三山は流れる雲間に時折顔を出す。西側＝日本海側と北側は晴れていて長岡市街、日本海の海岸線、弥彦山(やひこやま634m)、その奥は佐渡島の山塊、左手奥の柏崎方面に米山(◎よねやま993m)が同定できる。北側の越後平野東端に格好のよい粟ヶ岳(◎あわがたけ1293m)が見えたが強風でユッタリする雰囲気ではなく、前後して登った若者に写真を撮って貰い9:25退散する。

11時、大岳までなんとかたどり着き、振り返ると雪渓を残した守門岳(袴岳、青雲岳)の姿が美しい。地形の関係か風が少し弱まり休憩し、食事する。

11:30保久礼(ほっきゅうれい)登山口に向けて下山開始。樹林の中の赤土の滑りやすい直線的な坂道を延々と下る、長い。途中、刈り払いされた二つの展望所で山頂から展望した日本海側の景観を確認する。下るに従って気温が上がりいくつかの蝉のグループの大合唱となる。13:30舗装の林道に出て二口登山口まで戻る。8時間の守門岳周回コースを無事終える。

14時帰路につく。18時自宅着。家の中の玄関のところで21度しかなく、日本海側と比べてすごく寒く感じた。日頃自分では住所地が太平洋側とは思っていないが、やませ＝偏東風(山背)の影響か。続くようであれば農作物に影響が出ることが心配だ。

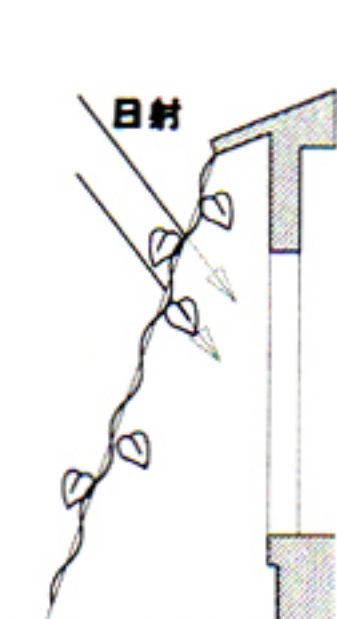
久しぶりの車2泊の山旅を無事終える。

令和元年7月 NO81 アンチ・エイジング 山旅遊人

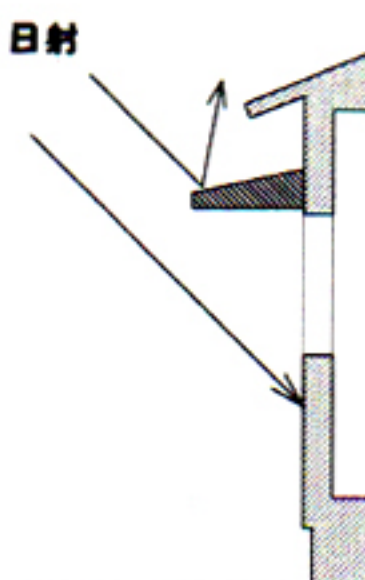
夏の暑さ対策 ^_^ 日除けをつける

窓には普通内側にカーテンやブラインドがついていますが、日除けは窓の外側につけた方が断然効果的です。室内日除けの場合、結局日射の熱を内部に入れてしまうので、50%程度しか日差しの熱を遮れませんが、室外の日除けの場合、日除け表面で熱を逃すため日射の80%~90%程度遮ることができます。

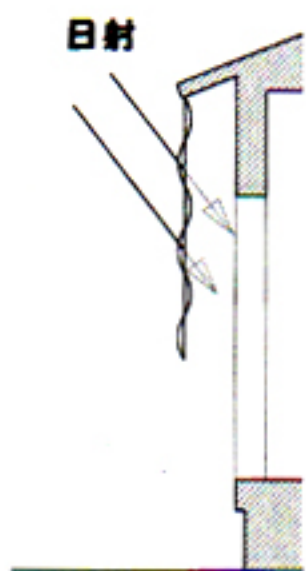
グリーンカーテン取付



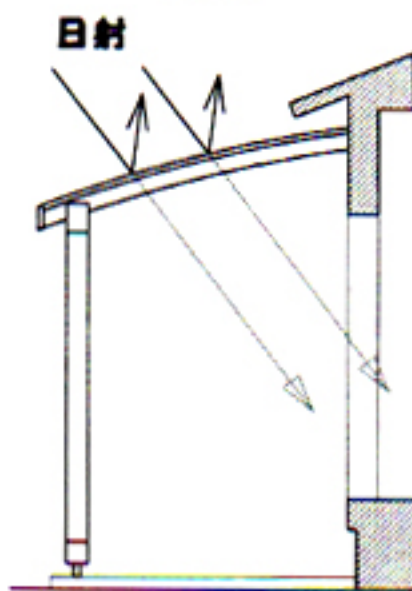
ひさし取付



すだれ取付



テラス取付



令和元年 7月5日発行
有限会社 幸田建設
<発責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話 0243-44-3816

<後記>

あちこちの家の庭に咲くあじさいが色鮮やかできれいです。道端に植えておくところもあって、散歩の途中楽しませてもらっています。
(事務員)